

航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

整備士養成ワーキンググループ

平成29年度とりまとめ

1. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

2. 平成29年度における取組み

(1) 整備士の英語能力向上

JAEA、ANA及びJALの3者において設置されたタスクグループでの検討を経て、平成28年3月に発刊し、以降数多くの航空会社や専門学校などの教育現場で幅広く利用されている「新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」の更なる普及と、今までの英語学習法の問題点を掘り下げ、これからの時代に適した最新の英語学習法を知り、実践することを目的として、「航空用英語学習講座」（1日コース）を昨年度から引き続き企画し、今年度は平成29年4月27日、同年7月28日及び同年12月5日の計3回開催した。

【講座の内容】

第一部

- ・英文マニュアル（AMM）の特徴、読むときの留意点
- ・Simplified Englishについて
- ・英文整備記録の考え方

第二部

- ・Lesson learned - なぜListeningができないか
- ・インターネット、スマートフォンを利用した学習法
- ・専門用語の習得法

また、多くの学生がいつでも気軽に航空英単語に触れられる環境を整える一環として、インターネットの海外学習サイトやスマートフォンの英語学習アプリ等を参考にスマートフォン等があればいつでもどこでも一人でも航空英単語が学べるHP「スマホで航空英単語」の整備を行い、平成29年10月2日より運用を開始するとともに、航空専門学校及び大学（航空関連学科）にポスターを配布し、周知を図った。

(参考)

「新 これから学ぶ 航空機整備英語マニュアル」については、平成29年2月末現在、学校教育機関5校、航空会社2社、整備・製造会社1社等に採用され683部を販売している。

「スマホで航空英単語」については、平成30年2月15日現在、のアクセス数が4,925件、アンケート回答数161件のうち要望・感想数が35件であった。

要望については、「アプリ化、イラストを入れてほしい」、「検索機能、問題形式化、誤解しやすい単語の掲載」などである。

感想については、「気楽にはじめられた」、「ちょっとした時間で勉強できる」、「楽しく・便利に使っている」、「単語が分からず苦勞していたがさっと確認できる」、「面白い企画で凄くいい」などであった。

(2) 整備管理従事者の養成

昨年に引き続き平成29年度においても、JAEAにおいて「整備管理従事者講習会（入門編）」を継続開催するとともに、開催回数の拡充を行い、平成29年8月3日～4日の2日間および平成29年12月7日～8日間の2日間の2回計4日間実施した。

さらに、今年度の新たな取り組みとして、従来からの航空機整備・技術基礎コースの内容を大幅に見直し、整備管理従事者講習会【専門編】と位置づけた「航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB、MEL）」を新たに設定し、平成29年6月14日～15日の2日間、平成29年11月16日～17日の2日間、2月15日～16日の2日間の3回計6日間実施した。

【講座の内容】

- 航空機の耐空性をベースとした航空安全管理の法的枠組みと仕組み
 - ・航空安全と耐空性
 - ・耐空性の認証
 - ・耐空性の継続と整備
- 「整備プログラム」「MEL/CDL」等の設定と運用及び具体例紹介
 - ・MRBレポートとMSG-3
 - ・整備要目の作り方
 - ・信頼性管理プログラム
 - ・MELとCDL

(3) 整備士の技量・技能の維持・伝承

平成27年度に、JAEA、ANA及びJALの3者においてタスクグループを設置し、関係者の意見やタスクグループでの検討結果を踏まえ、技量・技能の維持・伝承に係る発表会を開催することを決定した。

平成29年度は、この発表会を継続開催することとし、平成29年12月1日に「第3回技量・技能の維持・伝承」発表会を実施した。

【発表者と内容】

○日本貨物航空株式会社

テーマ：「目指せ合格率100%

新規B747-8F一等航空整備士養成訓練体型の確立」

○日本エアコミューター株式会社

テーマ：「JAC資格者養成と整備士の技量・技能の維持、伝承」

○スカイマーク株式会社

テーマ：「新生スカイマークにおける

整備従事者・整備管理スタッフの育成と課題」

○発表者全員によるパネル・ディスカッション

(4) 中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討

過去の検討・議論において、航空整備士に関する指定航空従事者養成施設（以下「指定養成施設」という。）における教官及び技能審査員の確保が中長期的な整備士の養成の課題の一つであることが判明しており、この課題を解決する一つの方策として指定養成施設間での技能審査員のシェアについて「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」（本ワーキンググループに名を連ねる教育機関から構成）において、当該課題について検討を続けてきた。

本年度においては、平成29年9月21日～22日の2日間、上記連絡協議会を開催し、各校の教育の実施状況やその方法などについて相互に共有した。各校でのやり方の違いにより容易にシェアを行うことは困難であるものの、共有された情報を元に各校での取り組みへの反映検討の材料となった。また、このような取組みは引き続き上記連絡協議会にて必要に応じ継続することとした。

3. 今後の取組み

(1) 整備士の英語能力向上

「新 これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」については、学校教育機関や航空会社、整備・製造会社等での更なる普及を図っていく。また、関係者の意見等を踏まえ、必要に応じて見直しの検討を行うこととする。

「航空用英語学習講座」を今後も実施する。また、関係者の意見等を踏まえ、必要に応じて講習内容の見直しの検討を行うこととする。

(2) 整備管理従事者の養成

整備管理従事者講習会【入門編】・【専門編】を今後も実施する。関係者の意見等も踏まえ、各航空会社の要望に応えられるよう内容の充実を図っていく。

(3) 整備士の技量・技能の維持・伝承

技量・技能の維持・伝承に係る発表会を今後も実施する。発表会で共有される知見や手法等は、JAEAにおいて蓄積していく。ある程度の知見や手法が蓄積された後、

整備士の技量・技能の維持・伝承に関するP D C Aサイクルの実践への取組みについて検討する。

(4) 中長期的な整備士の養成のあり方

中長期的な整備士の養成のあり方、人材確保に関する課題の解決については、各機関が個別で取り組んでいる内容を、機会をとらえて情報共有していく。全体で議論すべき事項等が出た場合は、必要に応じてWGを開催することとする。


4. 平成30年度以降の進め方

(1) 整備士養成ワーキンググループについて

整備士養成ワーキンググループとしてこれまで実施してきた取組みについては、関係者のご尽力により自発的に取組まれており、今後もそれぞれが継続していく形となっている。一方、現状においてワーキンググループとして継続議論となっている課題はなく、これまでの取組みを引き続き継続し、これをフォローアップする状況となっている。このため、今後については、ワーキンググループ構成員又は航空当局から新たに検討課題が提起される等、必要に応じてワーキンググループを開催することとする。

<<添付資料>>

- ・整備士養成ワーキンググループ平成29年度とりまとめ参考資料
- ・整備士養成ワーキンググループ構成員名簿



整備士養成ワーキンググループ
平成29年度とりまとめ参考資料

整備士の英語能力向上

今年度の取組状況

- ・ 昨年に引き続き J A E A において「航空用英語学習講座」を実施。平成 29 年 4 月 27 日に第 3 回、7 月 28 日に第 4 回、12 月 5 日に第 5 回講習会を実施した。

大項目	内容
第一部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文マニュアル (AMM) の特徴、読むときの留意点。 ・ Simplified English について。 ・ 英文整備記録の考え方。
第二部	<ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson learned - なぜ Listening ができないか (経験から学ぶ) ・ インターネット、スマートフォンを利用した学習法 (いつでも、どこでも、一人でも) ・ 専門用語の習得法 (一生付き合える学習帳の作り方)

- ・ 「スマホで航空英単語」を平成 29 年 10 月 2 日より日本航空技術協会ホームページにて運用を開始。ポスターなどを作成し航空専門学校及び大学 (航空関連学科) に配付し、周知を図るとともに、アンケート集計を実施することにした。

参考：
 アクセス数：4,925件
 アンケート回収：161件
 (平成30年2月15日現在)

公益社団法人 日本航空技術協会
 JAPAN AERONAUTICAL ENGINEERS' ASSOCIATION

お知らせ 協会について 入会案内 航空技術のおはなし 講習会・イベント オンラインショップ 寄附のお願い

▶ 会員専用ページ

スマホで航空英単語

スマホで航空英単語

スマホで航空英単語には、**最低限覚えていただきたい**航空技術英単語を収録しています。航空英単語学習の一助として、本コンテンツを繰り返しご利用していただければ幸いです。コンテンツご利用後、上段からアンケートにもご協力下さい。

ここからスタート

◀ PAGE TOP

公益社団法人 日本航空技術協会
 JAPAN AERONAUTICAL ENGINEERS' ASSOCIATION
 〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-6

アクセスマップ

整備管理従事者の養成

今年度の取組状況

- ・ 昨年に引き続き J A E A において整備管理従事者講習会【入門編】を実施。平成29年8月3日～4日に第3回、12月7日～8日に第4回講習会を実施した。
- ・ 本年度は、整備管理従事者講習会【専門編】と位置付け、従来からの航空機整備・技術基礎コースの内容を大幅に見直し、航空機耐空性管理コース（法と運用、MRB、MEL）として新たに2日間コースを設定した。
平成29年6月14日～15日に第1回、11月16日～17日に第2回、2月15日～16日に第3回講習会を実施した。

大項目	内容
第一日目	航空機の耐空性をベースとした航空安全管理の法的枠組みと仕組みを中心に説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 航空安全と耐空性 ・ 耐空性の認証 ・ 耐空性の継続と整備
第二日目	運航者の整備・技術管理の主要な業務である「整備プログラム」「MEL/CDL」等の設定と運用について、具体例を紹介して説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・ MRBレポートとMSG-3 ・ 整備要目の作り方 ・ 信頼性管理プログラム ・ MELとCDL

整備士の技量・技能の維持・伝承

今年度の取組状況

- ・ J A E A主催により、各社の知見や具体的に行っている事柄を共有する場として、平成29年12月1日に第3回発表会を開催した。
- ・ 第3回発表会では、次の3者よりプレゼンテーションが行われた。

【発表者】

▽日本貨物航空株式会社

テーマ：「目指せ合格率100% 新規B747-8F一等航空整備士養成訓練体系の確立」

▽日本エアコミューター株式会社

テーマ：「JAC資格者養成と整備士の技量・技能の維持・伝承」

▽スカイマーク株式会社

テーマ：「新生スカイマークにおける整備従事者・整備管理スタッフの育成と課題」

▽発表者全員によるパネル・ディスカッションを実施

- ・ 発表会は、次年度以降も実施する。

整備士の養成のあり方検討

○技能審査員等の確保について

過去の検討・議論において、航空整備士に関する指定航空従事者養成施設（以下「指定養成施設」という。）における教官及び技能審査員の確保が中長期的な整備士の養成の課題の一つであることが判明しており、この課題を解決する一つの方策として指定養成施設間での技能審査員のシェアについて「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」（本ワーキンググループに名を連ねる教育機関から構成）において、当該課題について検討を続けてきた。

本年度においては、平成29年9月21日～22日の2日間、上記連絡協議会を開催し、各校の教育の実施状況やその方法などについて相互に共有した。各校でのやり方の違いにより容易にシェアを行うことは困難であるものの、共有された情報を元に各校での取り組みへの反映検討の材料となった。また、このような取り組みは引き続き上記連絡協議会にて必要に応じ継続することとした。

航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

整備士養成ワーキンググループ構成員名簿

(平成 30 年 3 月現在)

○構成員 (以下、順不同)

日本航空株式会社
全日本空輸株式会社
日本貨物航空株式会社
株式会社AIRDO
株式会社ソラシドエア
天草エアライン株式会社
アイベックスエアラインズ株式会社
株式会社スターフライヤー
株式会社フジドリームエアラインズ
Peach Aviation 株式会社
ジェットスター・ジャパン株式会社
春秋航空日本株式会社
スカイマーク株式会社
バニラ・エア株式会社
三菱重工業株式会社
ボーイング・ジャパン株式会社
株式会社ジャムコ
学校法人君が淵学園 崇城大学
学校法人都築教育学園 第一工業大学
学校法人日本航空学園 日本航空専門学校
学校法人日本航空学園 日本航空大学校
学校法人浅野学園 国際航空専門学校
学校法人神野学園 中日本航空専門学校
学校法人筑波研究学園 成田つくば航空専門学校
学校法人日本コンピュータ学園 東日本航空専門学校
学校法人ヒラタ学園 大阪航空専門学校
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
関東職業能力開発大学校附属 千葉職業能力開発短期大学校
一般社団法人全日本航空事業連合会
公益財団法人航空輸送技術研究センター
公益社団法人日本航空技術協会
一般社団法人日本航空宇宙工業会

○関係省庁

国土交通省
経済産業省